

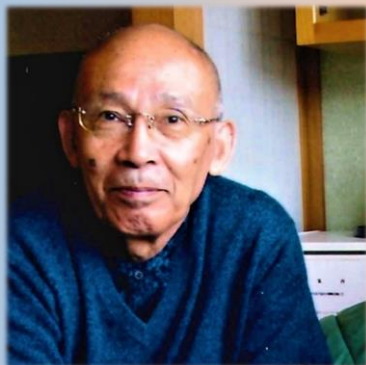
北畠立朴 × 小田島本有

公開対談 「啄木の76日間」

詩人・石川啄木は明治40年5月から約1年間、北海道で生活しています。函館、札幌、小樽を放浪し、明治41年1月21日から上京する4月5日までの76日間を釧路で過ごしました。

釧路新聞社の記者として一目置かれた啄木は、創作活動も盛んに行いました。また、啄木の日記や書簡には、お酒を覚えて芸妓さんたちに囲まれた日々について綴られています。

そんな啄木の釧路時代について両氏が語り合います。



北畠立朴氏

釧路啄木会会長

主な著書

『釧路時代 啄木をめぐる女性たち』
(緑の笛豆本)

『啄木に魅せられて
釧路時代の啄木を探る』

『全国の啄木碑
石川一族に関する碑』



小田島本有氏

文学研究者

釧路工業高等専門学校副校長

主な著書

『釧路から～国語教師のメッセージ～』
(釧路新書 28)

『午後のひとときコーヒーブレイク』

『小説の中の語り手「私」』

2018年10月7日(日)

会場：釧路市中央図書館7階
多目的ホール

時間：13：30～15：00

釧路文学館

釧路市中央図書館6F

〒085-0015

釧路市北大通10丁目2番1号

TEL. 0154-64-1740

申込不要・入場無料

※石川啄木「啄」の表記について
キバ付きが正しい表記ですが、環境依存文字のため「啄」と表記しています。ご了承ください。